

Small Talk台本（第3時・第4時のはじめ5分）

進め方（外国語活動）：帯活動として単元の後半に2回。3年は先生の話聞くことが中心で、ペアは2回目だけ30秒×2回（相手を替えて）。1回目のペアのあとに中間指導（下の「ことばの補給」）を挟む。なりきりではなく先生の本当の好きな文字と写真で話す。

話題1 先生の好きな文字（第3時）

板書：What letter do you like? I like ~. Let's make ~! [大文字カード4枚]

T Hello, everyone! Look. (Mのカードを見せて) M! I like M.

みんな、こんにちは。見て、M！先生は、Mがすき。

T Look! Two mountains! (両うでで M を作る)

見て。山が2つあるみたいでしょう！（両うでで M）

T What letter do you like? (1人の子に)

あなたは、どの文字がすき？（黒板の大文字カードを指さして）

S T! / I like T.

T！（文字の名前1つで十分。指さしだけでもよい）

T T! Nice! Let's make T! (全員で両うでを横に広げる)

T！いいね！みんなでTを作ろう。

つまった子への助け舟：名前が出ない子には、カード2枚でT? O? と聞き、指さした方を先生が言い直す。

話題2 先生が見つけた町の文字（第4時）

板書：How many letters? What letters? Look! ~! [先生がとった町の写真1枚]

T Look! A bus stop near our school. (写真を見せて) How many letters? Let's count!

見て。学校の近くのバス停。文字はいくつある？ いっしょに数えよう。

S One, two, three! Three!

1、2、3！3つ！（指で数えるだけでもよい）

T Three! What letters? (1文字ずつ指さす)

3つ！なんの文字？

S B! U! S!

（文字の名前を1つずつ。全部言えなくてよい）

T Great! Now, find a letter in our classroom. Look! K! (指さす)

すごい！ペアで、教室で見つけた文字を指さして Look! →相手は Wow!（30秒×2回・一度やって見せる）

つまった子への助け舟：名前が言えない子は、指さすだけでよい（相手が先生が名前を言って返す）。



中間指導 1回目のあとに全体で（ことばの補給）

第4時のペアの1回目のあとに全体で：「文字を教えてもらえた人？」と聞いて手をあげてもらおう。→「どこにあったか、聞きたくなった人？」と聞き、板書に Where? を足して、両手を広げて見回すジェスチャーといっしょに全員で2回言う（答えは指さすだけでよい）。ふやすのはこの1語だけ。→ 相手を替えて2回目へ。2回目は「教室で、いちばんたくさん見つかった文字は？」をたずねて終わる（このあとの身の回りABCさがしビンゴで、もっと見つける元になる。ビンゴの「Where? Tell your friend!」も同じ1語）。

対話を続けることば 黒板横に掲示しておく

はじめる	Hello!
くり返す	T? T!（あいての言葉をくり返す）
ひとこと感想	Nice! / Wow!
たしかめる	Pardon?
見つけた！	Look! K!（ゆびさして教える）
たずねる	Where?（→ゆびさして答える）
おわる	Thank you. / See you!

先生へ

- ・3年の Small Talk は先生の話聞くのが中心。第3時はペアにしない（答えた子の文字を全員でからだで作る＝第2時のからだで文字づくりの続き）。第4時のペアも30秒×2回で十分
- ・M と「山が2つ」は、先生の本当のすきな文字と見立てに差し替える（Word版で書き換えられる）。名前の頭文字の話は第4時のきくワーク（イニシャル）にとっておく。文字は読ませず、名前を言うだけ（ローマ字の読み方には入らない）
- ・第4時の写真は、先生が通勤の道や学校の近くでとった案内の文字（バス停・駅・お店の入口・2～4文字）に差し替える。会社のロゴの大写しは避ける。子どもの持ち物の文字は使わない（ビンゴも目できがすだけ）。音声は先生と子どもの声で、話題ごとに1本ずつ